

2020/10/13

(うと Q 世話し まだまだ過剰な「バブル真っ盛り部分の剥落」でしかないような)

1 割減経済だとか 3 割減経済だとか最近よく耳にしますが、恐らくこちらの方がノーマルだったのかもしれませんが。

暫く前のネットの記事で、確か気象庁だか気象協会だかの主任研究員さんのチームが、温暖化の影響が異常気象に影響を与えている事の確認を得るために、膨大な計算をして「温暖化の影響がある現実の地球」と「温暖化の影響がない架空の地球」を再現したところ、明らかに産業革命以降、我々が馴染んできた前者の世界による温暖化現象が異常気象を巻き起こしていることが証明されと書かれておりました。

これを冒頭の文章に当てはめてみますと「温暖化の影響がない架空の世界」が現在の 1 割乃至 3 割減経済にあたり、その方がノーマルだと言えなくもありません。

しかし、この研究とは異なって、1 割減経済も 3 割減経済も、もはや架空ではなく実際に起こってしまっはいます。

そうしてもう一つ実際に起こってしまっているのが、ここ 200 年ほどの異常な人口急増と異常な都市集中化です。異常な急伸カーブです。

このカーブを人類史的及び生態学的視点で見ると「失われた 30 年でのデフレ」どころか、それとは反対にまだまだ過剰な「バブル真っ盛り」が深層真実であるような気がします。紙幅の関係で、まあ、それはさておき、

次のお話は

「では、その減った分の 1 割乃至は 3 割の経済とは何だったのか？」

です。

自分の観察を基に端的に言うと

「付加価値と言われた部分、差別化と言われた部分、基本機能以外のデコレーション部分」ではないかと。

もっと単刀直入に言えば

「踊らされていた部分」

ではなかろうかという気がします。

「簡単お手軽便利」「貴方が主役」「一段上の快適な生活」「貴方の個性にぴったり」「自分にご褒美」等などの謳い文句のオンパレード部分。

それをモノやサービスで「シンボライズした譬え」として具体的に書きますと

「旅行 (非日常)」「飲食 (ごちそう)」「タワマン (背伸び)」など。

それらが図らずもコロナ禍で軌を一にして、例の過剰「バブル真っ盛りの一部分」が単に「剥落し始めただけのような」気がしないでもありません。

もちろん、コロナ禍で大打撃を受け「恨み (うらみ) 妬み (ねたみ) 嫉み (そねみ) 憤懣やるかたない」上述二番目の「飲食業に属する」意地悪ジイサン目から見た「歪んだ？」観察によれば、の話ですが。